

# 帝国日本の気象観測ネットワークⅣ 樺太庁

山本晴彦 著，農林統計出版 発行

2017年6月30日，377 pp. 定価4,000円（本体）

「帝国日本」と聞くとずいぶん昔の話に感じるが、同じ著者の「帝国日本の気象観測ネットワーク」シリーズを見ると、中谷宇吉郎、横田廉一、坪井八十二、鈴木清太郎、武田京一、坂上務の我々の先輩のお名前が出てくることから、大昔の話というわけではない。本書が対象とする樺太には1945年の終戦当時40万人の日本人が住んでいた。北海道のローカルニュースでは今でも終戦後の引き揚げの話題を耳にすることがあるし、札幌には通称樺太団地と呼ばれる、樺太からの引揚者が多く入居してきた古い市営住宅が残っていたりして、樺太は身近に感じる地である。

本書では第1章、第2章を中心に、樺太における気象観測の歴史が詳細に述べられている。樺太での気象観測は、1872年に函館で行われた日本初の気象観測と同時期に開始されたが、著者はその樺太での観測データを北海道立文書館で発見し、函館でのデータとの比較なども行っている。その後、樺太千島交換条約によりこの観測は廃止されたが、日露戦争勝利後に日本領となった南樺太に中央気象台の臨時観測所が設置された。南樺太の観測組織の変遷や予算、職員の待遇に関する詳細が述べられている。また、気象観測所の場所、見取り図、周囲の状況も詳しく調べられており、本書に記載される気象資料に示される観測が、どのような状況で行われたのかも知ることができる。

第3章には樺太の気象関係の職員について述べられている。職員数は1945年8月で180名程度とのことなので、気象関係者の人口比率はかなり多かったようだ。主な職員についての説明があり、中でも北海道帝国大学の農学科出身という田澤博氏が印象深い。戦後に外地から引き揚げてきた気象関係者を受け入れて全国各地の旧陸軍用地に産業気象研究所が設けられたが、田澤氏は美瑛の産業気象研究所に務め、農業気象関係の論文や著作も多いとのこと、いずれ読んでみたいと思う。なお、産業気象研究所は中谷宇吉郎の農業気象研究所とは違う組織である。いずれの組織も短命であった。

第4章には、明治38(1905)年以降の、樺太の気象資料についての詳細が記されている。樺太でどのような観測が行われ、どのような資料としてまとめられ、その資料は現在どこに所蔵されているかがわかる。

第5章では、大正9(1920)年の尼港事件をきっかけに占領した樺太北部の亜港（アレクサンドロフスク・サハリンスキー）に設立した気象観測所で、大正14年のソ連への気象業務継承までに行われた観測について解説している。

第6章では、「樺太気象台沿革史」に掲載された、元職

員の回想録を抜粋して紹介している。樺太の気象台は中央気象台管轄の地方気象台となっていたので、職員は樺太からの引き上げ後も中央気象台での業務に従事でき、その多くは札幌管区気象台と所管の測候所に勤務したとのことである。「樺太気象関係者の消息」の表には100名以上がリストされているが、その中の上杉一美氏、栗原幸一氏のお名前は農業気象学会北海道支部の昭和30年代の名簿にも見ることができる。支部でも活躍されたのであろう。

終章では、平成になってから札幌管区気象台が発行した樺太に関する3冊の資料について述べられている。

本書の目次は以下のとおりである（小項目は略した）。

## 序章 課題と方法

### 第1章 樺太における気象観測の創始

- 1 樺太と千島の領有と気象観測
- 2 臨時観測所の開設
- 3 第十臨時観測所の開設
- 4 樺太庁測候所への改称

#### 参考文献

### 第2章 樺太庁観測所の気象業務と展開

- 1 樺太庁観測所における気象業務の概要
- 2 樺太庁観測所における職員と予算
- 3 企画院気象協議会による気象機関の整備拡充
- 4 樺太庁の気象観測機関

#### 参考文献

### 第3章 樺太庁観測所・樺太庁気象台の職員

- 1 歴代所長・台長
- 2 職員の構成
- 3 主な職員

#### 参考文献

### 第4章 樺太の気象資料

- 1 気象年報
- 2 気象月報・気象旬報
- 3 気象累年報
- 4 上層気流観測報告
- 5 観測所案内・観象便覧
- 6 学術誌
- 7 異常気象報告・特別気象報告
- 8 気象に関する資料
- 9 地震に関する資料

#### 参考文献

### 第5章 薩哈噠軍政部と亜港観測所

- 1 シベリア出兵と尼港事件
- 2 薩哈噠軍政部
- 3 亜港観測所の設立と展開

<http://agrmnet.jp/wordpress/wp-content/uploads/2017-C-4.pdf>

2017年10月10日掲載

Copyright 2017, The Society of Agricultural Meteorology of Japan

- 4 亜港観測所における気象観測記録
- 5 ツイモフ農事試験場における気象観測
- 6 デカストリー港（泥港）の気象調査
- 7 『北樺太及び北辺気象の一斑』

参考文献

第6章 終戦時の樺太地方気象台

- 1 回想録にみる終戦時における樺太地方気象台
- 2 職員の引き揚げとその後の活躍
- 3 終戦時における樺太・千島の気象官署の気象通報

参考文献

終章

- 1 『樺太気象台沿革誌』
- 2 『サハリンの気象』
- 3 『大泊測候所の沿革とその記録からみた大泊の気象』

以上のように、本書には日本が樺太において行った終戦までの40年間（一部更に遡っている）の気象観測とその資料について詳細に述べられている。今後大いに参考にされるべき、貴重な情報の詰まった一冊である。

(北海道大学・農学研究院・生物環境工学分野・鮫島良次)